

VI 今後の草地更新・維持管理にあたって

1 草地更新の経済効果（試算）

(1) 植生の違いがもたらす経済効果試算について

植生が良ければ、良いサイレージになり、乳生産に寄与すると言われていています。道総研酪農試験場で、草地の植生と乳生産の関係について、経済効果の検討がなされていますので、紹介します。

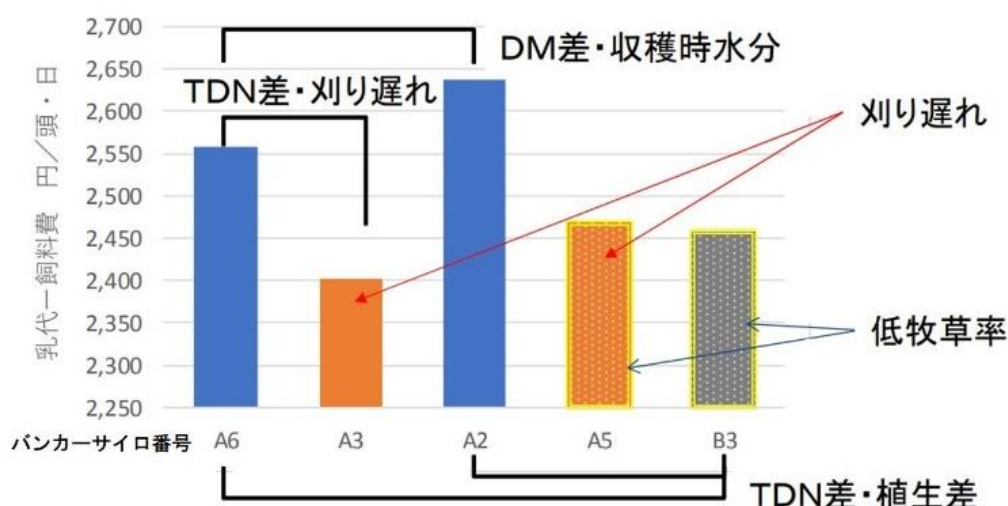
(2) 調査内容

H30年からR元年の2カ年で、管内のTMRセンター1箇所で、調査・検討が行われました。対象センターの草地植生を全筆調査し、それぞれの草地から調製されたサイレージの粗飼料分析が行われました。その結果が表VI-1となります。

表VI-1 バンカーサイロの状況

		バンカーサイロ番号				
		A6	A3	A2	A5	B3
収穫開始日		6月25日	7月17日	6月24日	7月13日	6月30日
牧草率 %	牧草率	55.7	68.3	56.6	41.1	23.8
	うちマメ科率	17.4	22.0	16.0	12.8	5.6
DM%		18.3	25.8	21.2	25.5	22.2
DM中%	TDN	59.7	49.5	61.2	51.4	56.2
	CP	12.1	10.0	11.4	9.1	10.4
Vスコア		78	90	98	96	87

このサイレージは、構成員の7牧場に供給されました。それぞれのサイレージが給与されていた時期のバルク乳量をかながみ、経済性を検討した結果が図VI-1になります。



図VI-1 事例におけるサイレージ栄養価の違いによる「乳代-飼料費」の比較

良質な牧草を収穫するために草地更新を行い、植生をよく保つことで、乳生産を高め、経済的にも有利であることを一定程度確認できました。

ただし、乾物率や刈り取り時期の影響を受けるため、土づくり、草づくりと合わせて適期刈り取りに向けた体制整備も必要となります。